

風の輪

風の輪 第9号

社会福祉法人 水仙福祉会

☎533-0004

大阪市東淀川区小松1丁目13-20

☎06-328-4019 FAX 06-325-9710

題字 岡村 重夫

創立20周年

障害を持つ子どもと家族と共に

淡路こども園園長 岩崎 隆彦

淡路こども園は、昭和53年

に開所して、今年で満20年を迎えました。地域や関係者の方々など、多くの人の理解や協力に支えられ、ここまで歩んでこれたと思います。心からお礼申し上げます。

20年といえば、当初3才の幼児は、学童期を経て今大人に成長しています。この間、何百人の子ども、何百の家族に出会いました。障害の種類も程度も様々ですが、どの子もかけがえのない個性を持っています。



子どもが育つ

基盤としての

家族への援助

振り返ってみて、本人だけでなく、母親や父親、兄弟姉妹、祖父母など家族と共に歩んできたことがいかに大切だったかを改めて思います。

お母さん方の悩みを聞く中で、障害を受け止めることの難しさ、周りに理解してもらえない辛さ、気持ちの焦りなど子育ての悩みや苦労と同時に、子どもへの熱い思い、我が子と気持ちが通じ合えるようになつた喜び、それを援助することの大切さを知りました。また、きょうだいも一緒に通つてくる中で、きょうだい関係の難しさ、障害を持つ子どもとのバランスのとれた育児をすることの難しさ、きょうだい自身の悩みも大きいこと、父

淡路こども園の園庭で

母の協力関係の大切さ

が見えてきました。

そして、幼児期、学童期と、一人の子どもの成長を継続して追ってみてはじめて、どの時期にどんな困難に直面するか、在宅生活を支えるためにどんな相談援助が必要か、福祉サービスや教育の制度で何が欠けているかがはっきりしてきました。障害が判明した時の保護者の心理的ショックを支える援助、家族の抱える問題について一貫して相談に乗る体制は幼児期、学童期を通じて殆どありません。特に、体が大きくなる学童期は、本人や家族が大きな危機に直面します。支援体制の欠如は深刻です。それを支えるための方策を検討する必要性を痛感します。

私たちのとりくみ

いま、この20年を改めて振り返ってみると、淡路こども園の取り組んできた柱、つまりきょうだい同伴の母子通

園、父親も含めた家族療育、卒園後のアフターケア、学童期の相談援助、通園施設での緊急宿泊援助、専門家による外来相談、育児支援など、これらはいずれも当時、他がまだ取り組んでいない先進的な試みでした。必要とあれば、実践するのが、民間事業のよさであり、やりがいなので、確かに実績や大方の人たちに理解が浸透するまでには、時間がかかります。

これからの

福祉の歩み

今、ようやく障害を持つ人たちに対する福祉や教育の在り方が問い直されています。従来の指導・訓練から、本人が良い人生を送れるための支援の方向に大きく転換しつつあります。兎者一貫、自己決定、本人参加、家族支援などが、当たり前のことのように言われる時代になりました。しかし、これらの中身を本当に本人や家族の立場に立ったものにしていくためには、援助に携わる人が一方的にサービスを提供するのではなく、本人や家族の声に耳を傾け、共に歩む姿勢が基本的に大切ではないでしょうか。